内容解説資料

|  |  |
| --- | --- |
| 観点 | 内容と特色 |
| 1 　教科の目標，および学習指導要領などへの対応 | |
| **⑴　教育基本法や学校教育法の理念への対応はどのようになされているか。** | |
|  | ・教育基本法第1章第2条，第5条第2項及び学校教育法第21条に則り，幅広い内容を取り扱うことができるよう，教材の選定や学習活動の設定に配慮するとともに，児童の興味・関心や，発達の段階に応じて，適切に教材を配列している。 |
| ●幅広い知識と教養，真理を求める態度 | ・対象を言葉で理解・表現し，物事を論理的に解釈する力を育成することで，幅広い知識と教養を身に付けられるようにしている。また，思考操作の方法をメタ認知することにより考えの深化を促し，真理を求める態度や自主及び自律の精神が養われるよう配慮している。 |
| ●豊かな情操，創造性 | ・豊かに想像したり，思考を再構成して捉え直したりすることでその能力を伸ばし，情操を豊かにするとともに，既有の認識にとらわれない新しい価値を生み出すための創造性が培われるよう配慮している。 |
| ●個人の価値の尊重，自他の敬愛と協力 | ・考えや立場の多様性を理解し，言葉を介して協働するための学習基盤を作っていくことで，個人の価値を尊重し，その能力を伸ばすとともに，主体的に社会の形成に参画する態度が養われるよう配慮している。また，活動目的を明確にし，互恵的な集団思考の有用性を図ることで，自他の敬愛と協力を重んずる態度が養われるよう配慮している。 |
| ●自主及び自律の精神，主体的に社会の形成に参画する態度 | ・自ら課題を発見し，それを解決していくためのプロセスを構築する力を育てていくことで，創造性を養うとともに，自主及び自律の精神が養われるようにしている。また，積極的に課題に関わり，考え，判断し追求したり，考えを表現したりすることで，主体的に社会の形成に参画する態度が養われるよう配慮している。 |
| ●環境の保全に寄与する態度，国際社会の平和と発展に寄与する態度 | ・環境，平和，人権など，現代社会が抱えるさまざまな課題を題材とした教材を通して，生命を尊び，環境の保全に寄与する態度を養うとともに，それらの課題に対してどのように解決していくかを考える中で，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度が養われるよう配慮している。 |
| ●伝統や文化の尊重，我が国の郷土を愛する態度 | ・我が国の伝統的な言語文化である古典作品や，昔から継承されてきている季節感を感じさせる言葉に触れることで，伝統と文化を尊重し，我が国の郷土を愛する態度が養われるよう配慮している。 |
| **⑵　教科の目標が達成できるよう配慮されているか。** | |
|  | ・国語の特質を理解し適切に使うことができるよう，言葉の意味や働きなどの言語要素や言語の決まりを取り立てて系統的に配置するとともに，身の回りと言葉とのつながりを意識して教材化することで言語生活を豊かにしていけるよう配慮している。  ・「思考力，判断力，表現力等」に示されている「A　話すこと・聞くこと」「B　書くこと」「C読むこと」で育成する資質・能力を総合的に考え，対話の中で伝え合う力が着実に身につけられるようにするとともに，系統的・重点的に学習を組み立てることで，思考力や想像力が養われるようにしている。  ・言葉を使うよさを実感し，論理的な側面，感性・情緒の側面，人とのコミュニケーションの側面などから正誤・適否・美醜などの言語感覚を養い，国語の大切さを自覚できるようにしている。 |
| **⑶　学習指導要領への対応は適切になされているか。** | |
| ●語彙指導の改善・充実 | ・上巻巻頭の「見つける・見つめる」による語彙集め（3年以上），「読むこと」の脚注に示した辞書引き理解語彙，巻末の「言葉の部屋」など，年間を通してさまざまな教材を設定し，言葉への意識を高めるとともに，語彙を「質」と「量」の両面から豊かにし，実生活で使える語彙力を育てることができるよう工夫している。 |
| ●情報の扱い方に関する指導の改善・充実 | ・３年以上で論理的思考力を育てるための教材を設定し，情報と情報との関係や情報の整理の仕方について，演習を通して体験的に理解し，他領域や他教科の学習の中で使える力となるよう工夫している。また，「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の活動の中にも，さまざまな思考ツールによる表し方を取り入れ，情報を視覚的にとらえて整理する力が育つよう配慮している。 |
| ●学習過程の明確化 | ・ 児童自らが学びを進めていくことができるよう，学習過程の構造化を図り，見通しや，目的意識をもって学習に取り組めるようにするとともに，ふり返りの観点を示し，次の学びにつなげることができるよう工夫している。  ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」では，複数ページで展開する活動の概要を単元の冒頭に一覧で提示し，学びの見通しをもてるよう配慮している。  ・「読むこと」のてびきは，原則，見開きで内容を示し，プロセス全体を見渡せるようにすることで，学習過程の構造化を図り，学習の見通しからふり返りまでの一連の流れを意識しながら学習することができるよう配慮している。 |
| ●「考えの形成」の重視 | ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」単元の冒頭で見通しを示したり，てびきの各設問に読む「目的」を示すことで，その活動がどの学習過程に該当するのか，児童が意識して活動に取り組めるよう配慮している。  ・一連の流れの中で，「考えの形成」に該当する活動を組み込むとともに，「考えの形成」がとくに重視される教材を適宜設定することで，児童が文章を読んだうえで自分の考えをもち，考えたことを表現する場を確保するよう配慮している。▶5下20「どう考える？　この投書」， 6下9「「本物の森」で未来を守る」，6下86「日本の魅力，再発見」など |
| ●我が国の言語文化に関する指導の改善・充実 | ・児童が無理なく伝統的な言語文化に親しめるよう，現代につながる優れた古典教材を選定している。また，四季折々の言葉に触れ，日本の生活に息づく「季節を感じる心」を育てるよう配慮している。 |
| ●漢字指導の改善・充実 | ・４年生で学習する都道府県で使用する漢字については，学習時期と学習活動を社会科と関連させ，効果的・効率的な学習が行えるよう工夫している。 |
| ●学習の系統性の重視 | ・育成したい資質・能力を総合的にとらえ，領域でつけたい力を相互に関連させながら学習を進め，系統的・段階的に言語能力が積み上がっていくよう配慮している。 |
| ●授業改善のための言語活動の創意工夫 | ・年間のバランス・配列を考慮しながら，学習のねらいに即した言語活動を各単元に適切に設定し，言語活動を通して学びが積み上がるよう配慮している。 |
| ●読書指導の改善・充実 | ・「知識及び技能」の指導事項に対応したものと，「読むこと」の言語活動例に対応したものをそれぞれ以下の通り設定している。  ・「読書に親しもう」（上巻で設定）では，ブックトークやアニマシオンなどの読書活動を通して読書の楽しさを味わい，進んで読書に向かう態度を養うよう工夫している。  ・「読書を広げよう」（下巻で設定）では，制作をともなう読書を行ったり自身の読書生活をふり返ったりしながら，読書の楽しさや意義に気づけるよう配慮している。  ・「読書の部屋」では，発達段階に応じた本を表紙写真とともに紹介し，児童の興味に応じて，読書の幅を広げられるよう工夫している。  ・「調べよう　まとめよう」（1年下巻，3～5年上巻）では，必要な情報へのたどり着くための方法や情報を活用するための方法を学べるよう配慮している。 |
| 2 　学習・指導への配慮 | |
| **【1】　構成と分量** | |
| **⑴　教材の構成は適切になされているか。** | |
|  | ・教科書全体の教材は大きく以下のように分け，「知識及び技能」を身につけるとともに，「思考力，判断力，表現力等」を系統的に積み上げ，国語の資質・能力の育成が図れるよう工夫している。 |
| ○単元 | ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域に対応させて，大きなまとまりとして設定し，一連の学習プロセスの中に，複数の指導事項を設定している。  ・冒頭には，「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」の二つの観点で整理しためあてを示し，目的意識をもって学習に取り組めるようにしている。また，終末では，どのように理解したか・表現したか，何がわからなかったか・足りなかったかなどを，自分の言葉でまとめながら学びをふり返ることで，次の学びにつなげられるよう工夫している。  ・説明文教材のあとに「書くこと」の教材を設定し，意欲・探究心のつながり，読解による資質・能力のつながりで学びを支え，書く力を効果的に育てるようにしている。  ・6年には，「読むこと」と「書くこと」，「書くこと」と「話すこと・聞くこと」の領域を有機的に関連させた複合単元を設定している。 |
| ○小教材 | ・つけたい力や言語活動を焦点化したレッスン教材などを設定し，必要な要素を言語技能を意識しながら学習を進め，他の単元で活用を図ることができるよう工夫している。  ・言語を取り立てて教材化し，言葉の意味・働き・使い方など基礎的な知識や技能を押さえ，生活の中で使える言語感覚を身につけられるよう工夫している。  ・伝統的な言語文化に触れたり季節を感じる言葉を増やしたりして，音読や表現活動を通して日本語の豊かさを味わえるよう配慮している。  ・思考力に特化した教材として，上巻では論理的思考力，下巻では感性的思考力を育てる教材を3年以上で配置し，情報と情報の関係を自覚的に理解したり言葉への見方・考え方を養ったりすることができるよう工夫している。 |
| **⑵　領域のバランスや教材の配列は適切になされているか。** | |
|  | ・「言語教材」や「伝統的言語文化教材」，「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各教材が特定の時期に偏ることがないよう考慮のうえ，単元・教材を配分している。また，それぞれの学習が，他領域の題材・活動と関連し，らせん的に学習を進めることができるよう，学習順やバランスなどを考慮して配列している。 |
| **⑶　教材の分量や配分は適切になされているか。** | |
|  | ・児童の発達段階や，時数，教材間の連携等を考慮し，適切な分量・数になるよう，配慮のうえ構成している。  ・各学年で予備時数を確保し，学校や児童の実態に合わせた指導を可能にしている。  ・単元は，1・2年で10～14単元，3・4年で11～12単元，5・6年で10～11単元を配している（6年は，そのうち二つが，複数領域にまたがる単元）。  ・小教材については，2～4年はそれぞれ15教材程度，5・6年は8～10教材を設定している。  ・「読むこと」「書くこと」関連教材は，1～5年で1～2教材設定し，「読むこと」が「書くこと」に生かせるよう配慮している。6年では，複合単元を設定し，「書くこと」と他領域との関連を図っている。  ・言語取り立て小教材は各学年8～10教材を設定し，系統的に学習することで，確実な習得と定着が図れるよう工夫している。  ・思考力教材は，3年生以上で上下巻各1教材を設定している。 |
| **⑷　系統性に対する配慮はなされているか。** | |
|  | ・6年間を通して，段階的・らせん的に学びを積み上げ，「確かな言葉の力」を身につけることができるよう，系統的に単元・教材を配列したり，学習の重点化を図ったりしている。 |
| **⑸　カリキュラム・マネジメントへの対応はなされているか。** | |
|  | ・学習指導要領で求められている資質・能力の育成のため，各学校が，目指す児童像や地域の実情に合わせて教育過程を編成できるよう，教科横断的な視点を意識するとともに，地域の人的・物的資源を活用しながら学習活動が行えるよう配慮している。▶1上104「がっこうでみつけたよ」（観察記録文），5上60「働く人にインタビュー」など  ・すべての教科の基盤となる資質・能力である言語能力を育むため，他教科の学習でも活用できる言語活動を多く取り入れている。▶資料を活用して発表する（2下38など），調査したことを報告文にまとめる（5下70など），グラフや表を用いて書く（6下86）など |
| **⑹　2 学期制，3 学期制への対応は適切になされているか。** | |
|  | ・2学期制，3学期制のどちらにも対応できるよう，単元・教材の配列および領域の配分に配慮している。 |
| **【2】　教材の選定** | |
| **⑴　幼稚園，中学校との連携は適切になされているか。** | |
| ●幼児教育との連携 | ・1年上巻に設定した「ことばとともだち」（入門期入門編）は，さまざまな動物たちが学校でクラスメイトと学びを進める，という設定にすることで，学校生活への不安を取り除き，楽しく元気に小学校での学びを始められるようにしている。  ・扱う教材は，児童の学習意欲を大切にしながら，各学校のスタートカリキュラムに応じて指導ができるよう，15分単位（モジュール）での指導ができるものを揃えている。教室や児童の実態に応じてさまざまな教材を組み合わせて指導することで，友達と対話しながら，言葉を学ぶ楽しさを実感できるよう工夫している。  ・幼稚園教育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識して，豊かな体験による感性やイメージを言葉の豊かさにつなげるとともに，共感し合いながら言葉を交わす楽しさを味わえるよう配慮している。 |
| ●中学校との連携 | ・小学校から中学校の学習に移行する際の「つまずき」に配慮し，文章の読み方や書き方，スピーチの仕方など，中学校でも使える国語学習の基礎・基本を学ぶとともに，それらを習得する過程で「学び方」が学べるよう工夫している。  ・多様なジャンルの文章を「読むこと」として設定するとともに，6年最後の文学教材では，中学校での読みでも生かせる「自己内対話を図った読み」について触れ，中学校で活用できる「読む力」の素地づくりを図っている。  ・6年では，中学校に先行して漢詩を扱い，リズムを楽しみながら音読することで，中学校で学ぶ古典学習にスムーズに移行できるよう工夫している。  ・高学年の巻末資料にはローマ字表を掲載している。書くことがいっそう重視される中学校での英語学習に入る前に，ローマ字を読んだり書いたりする力が確実に定着するよう配慮している。 |
| **⑵　他教科や学校生活との関連は適切になされているか。** | |
| ●他教科との関連 | ・他教科の学習への活用，関連づけができるよう，題材を選定している。  生活科　低学年における学校探検やおもちゃ遊びの活動と「話すこと・聞くこと」「書くこと」を関連させた題材▶1上104「がっこうでみつけたよ」（観察記録文），2下88「や ってごらんおもしろいよ」（おもちゃランド：1年生と遊び大会をする）  社会科　都道府県の地域的特色を調べる学習と，地域にゆかりのある短歌をよむ学習を関連させた題材▶4下62「日本各地の短歌」（都道府県に使われる漢字）  学級生活・学校生活　▶3上84「クラスレクリエーションをしよう」（学級会），5上14「しょうかいします，わたしの友達」（友達紹介）  ・言語能力を，全ての教科における学習の基盤となる資質・能力ととらえ，国語を中心として教科横断的な視点を意識して，他教科での学習に生かせるような言語活動を設定するよう工夫している。▶資料を活用して発表する（2下38など），新聞を作る（4上54），PRチラシを作る（4下28），インタビューする（5上60），調査したことを報告文にまとめる（5下70など），グラフや表を用いて書く（6下86） |
| ●その他 | ・上記のほか，さまざまな今日的教育課題に考慮して教材選定を工夫している。  防災・安全教育　▶4上124「安全マップを作って話し合おう」，6下9「「本物の森」で未来を守る」など  　郷土　▶6下86「日本の魅力，再発見」など  　情報化社会・人工知能の進化への対応　▶5上106「わたしたちとメディア」，6上42「AIで言葉と向き合う」など  　国際理解・国際協調　▶4上66「手で食べる，はしで食べる」，6下74「国境なき大陸　南極」など  　人権・福祉教育　▶3下126「わたしたち手で話します」，4下78「さわっておどろく」など  キャリア教育　▶2下44「水ぞくかんのしいくいん」，4下70「ドリームツリーを作ろう」など  　持続可能な社会の創り手　▶4上54「見学したことを新聞にまとめよう」など |
| **【3】 　文字・表記・図版** | |
| **⑴　文字・表記等への配慮はなされているか。** | |
| ●文字，書体，文字組など | ・教科書本文には，学校図書が教科書のために独自にデザインした教科書体を用いている。手書き文字に近くすっきりとしていながらも，はっきりとわかりやすい書体・太さであり，文字指導にも有効に使える。  ・入門期の書き文字は，書写教科書の著者である書家の字を使用している。書写の硬筆指導との関連を図るとともに，低学年の文字指導においても効果がある。  ・各学年の発達段階を考慮して，読みやすい文字の大きさ，行間・行数を設定し，紙面を構成している。 |
| ●文字提出，漢字学習 | ・1年では，平仮名を6月下旬までにすべて提出し，提出の順序にあたっては，清音→濁音・半濁音→撥音→促音→拗音と，段階的に学習できるよう配慮している。  ・片仮名は平仮名の提出が終わった7月中旬から，漢字は夏休みの直前から徐々に提出を始め，無理なく段階的に学習が進められるよう配慮している。  ・1年の配当漢字については，2年までにすべての読みを本文中で学習できるようにしている。  ・時数に応じ，月ごとの新出漢字の提出数が均等になるようにし，特定月に過度な負担がかからないよう配慮している。  ・新出漢字は，本文中に単語単位でルビをふるとともに，脚注に新出時と同じ単語で抽出し，読みの負担を軽減している。巻末資料「漢字のまとめ」では，読み方・用例・筆順・画数を示している。  ・上巻巻末資料には，前の学年までに学習した漢字，下巻巻末資料には，その学年までに学習した漢字の読み方を示し，家庭学習などで児童が自ら学べるよう配慮している。  ・巻末資料「○年生までに学習した漢字」では，音訓索引配列をし，未習の音に配列される漢字については，既習音訓内にも示し，そこから参照すべき音を導いて，児童自ら，すべての漢字を引けるようにしている。 |
| ●表記・表現 | ・語句のまとまりをとらえやすくするため，2年1学期教材までは，分かち書きを採用している。また，1年上巻では，文節の切れ目で改行するなど，意味のまとまりが理解しやすいようにしている。  ・漢字の未習・既習を厳密に適用した表記では，熟語の場合，読みにくさをまねくこともあるため，上位学年の漢字が含まれる熟語も，過度な負担にならないよう注意しながら，ルビをふって，適宜漢字で提出している。  ・表記・表現は全学年にわたって統一し，正しい表記が身につくよう配慮している。 |
| **⑵　挿絵・写真・図版等，提示する資料への配慮はなされているか。** | |
|  | ・ 挿絵・写真・図版などは，教材内容の理解を助けるもの，想像を豊かに広げるもの，活動の様子や留意点をわかりやすく示すものなど，学習を進めるうえで必要なものを厳選して掲載している。また，点字の凹凸を再現した資料ページも設け，実際に触れて理解を深める工夫をしている。▶4下84-85の間にある別丁特設ページ  ・絵や写真と文章とを対応させて読む教材を設定し，絵や写真から読み取ったことをもとに活動を行うよう工夫している。▶2下6「とべとべ回れ」，2下102「お手紙」など  ・文章の内容をまとめたり，考えを整理・形成したりする際に活用できるよう，適宜，表やイメージマップなどを配置している。▶2上38，3下60-61，6上28など |
| 3 　領域等の内容と特色 | |
| **【1】　入門期** | |
| **⑴　スタートカリキュラムへの対応はなされているか。** | |
|  | ・入学初期の時期を，幼児期の遊びや日常生活を通した学びから，児童期における自覚的な学びへの移行期間ととらえ，児童が新しい学校生活において，安心して，自分に自信をもちながら，自立した学びを生み出せるよう，各学校の実態に応じたスタートカリキュラムを考慮した教材を設定している。  ・入門期入門編教材ユニット「ことばとともだち」は，それぞれの活動を見開きで示し，児童の実態に合わせて複数の教材を組み合わせることで，一単位時間の指導が柔軟にできるよう工夫している。  ・教材内に示した場面は，児童が実際に経験するであろう様子を多数取り上げ，いずれも親しみやすいタッチで描いている。 |
| **⑵　教材の数や分量，配列，内容は適切になされているか。** | |
|  | ・幼稚園教育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し，幼児期の体験を生かしながら，知的な気づきを促し，言葉を学ぶ楽しさを実感できるようにしている。  ・夏休み前までの入門期教材をスモールステップで構成することで，国語学習の基礎・基本が着実に身につくようにしている。 |
| ○入門期入門編 | ・5月上旬までを「入門期入門編」と位置づけ，入門期教材ユニット「ことばとともだち」の各教材を組み合わせての柔軟な指導ができるよう工夫している。 |
| ○入門期基礎編 | ・5月中旬から夏休み前までを「入門期基礎編」と位置づけ，その後の国語学習の基礎となる土台が築けるよう配慮している。  ・平仮名の習得においては，清音→濁音・半濁音→撥音→促音→拗音と段階的に提出するとともに，文字と言葉の意味のつながりを意識することができるよう配慮している。  ・「ともだちとはなそう」（1上28），「えをみてはなそう」（1上42）など，友達と対話する活動を通して，表現したり共感しあったりする楽しさを実感できるよう配慮している。  ・助詞「は・を・へ」を使った文章を，一文ずつ段階を追って書くことで，助詞の正しい使い方を身につけるとともに，短文作りから日記のようなまとまった文章を書くまでの指導を段階的に行い，書く力が無理なく高められるよう考慮している。  ・短い言葉遊びの詩から文学教材・説明文教材まで，平仮名で書かれた多くの文章に触れ，文字言語に少しずつ慣れていくようにしている。  ・言葉遊びを取り入れ，楽しみながら言葉への関心が高まるよう工夫している。 |
| **【2】　知識及び技能** | |
| **⑴　言葉の特徴や使い方に関する事項への対応はなされているか。** | |
| ●言葉のいずみ・きまり | ・語句や漢字，言葉の意味については「言葉のいずみ」，語法や文法，日本語の使い方については「言葉のきまり」として取り立てて教材化し，段階的に学習が進められるようにしている。  ・児童にとって身近な日常生活の場面や，知的好奇心をくすぐる題材を導入とし，発見や気づきを促しながら学びを進め，自身の言語生活をふり返るとともに，学んだことを言語生活に還元できるよう工夫している。 |
| ●漢字指導 | ・当該学年の漢字は，原則，本文中に提出するよう配慮し，日々の学習の中で，新出漢字を学ぶことができるようにしている。  ・2年以上には「言葉をつないで文を作ろう」を6か所（2年のみ5か所）設け，前学年配当漢字が含まれた単語を使い，テーマに沿って短文を作る活動を行い，文や文章の中で使える力が定着するよう工夫している。▶2上72，3上61，4上47など |
| ●語彙指導 | ・上巻巻頭の「見つける・見つめる」による語彙集め（3年以上），「読むこと」の脚注に示した辞書引き理解語彙，巻末の「言葉の部屋」など，年間を通してさまざまな教材を設定し，言葉への意識を高めるとともに，語彙を「質」と「量」の両面から豊かにし，実生活で使える語彙力を育てることができるよう工夫している。 |
| **⑵　情報の扱い方に関する事項への対応はなされているか。** | |
|  | ・3年以上で二つの思考力教材を設定し，情報と情報との関係や情報の整理の仕方について，演習を通して体感的に理解し，他領域や他教科の学習の中で使える力となるよう工夫している。  ・「論理的思考単元」（上巻に設定）では，情報を論理的・分析にとらえ，情報どうしの関係をわかりやすく整理するための方法を学ぶことで，的確に情報をつかみ，自分の考えを形成していくための素地を養えるよう工夫している。  ・「感性的思考単元」（下巻に設定）では，情報をイメージや連関思考を中心とした感性でとらえ，自由な発想で事象と言葉を結びつけることで，言葉への見方や考え方を養うとともに，新しい価値を生み出す力につながるよう工夫している。  ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の活動の中に，図化・表化・イメージマップなどさまざまな思考ツールとしての表し方を取り入れ，情報を視覚的にとらえて整理する力が育つよう配慮している。 |
| **⑶　我が国の言語文化に関する事項への対応はなされているか。** | |
| ●伝統的な言語文化 | ・各学年1か所，伝統的な言語作品の美しい響きやリズムを声に出して味わう教材を設定し，昔から現在へ連綿と受け継がれてきた言語文化に親しむことができるよう配慮している。  ・適宜設定した「言葉で遊ぼう」では，長く親しまれている言葉遊びを取り上げ，楽しみながら言葉の豊かさに気づけるよう工夫している。  ・2年以上では「季節のたより」を年4か所設定し，四季折々の言葉に触れるとともに，身の回りから感じたことを言語化し，表現活動にひらくことで，日本の生活に息づく「季節を感じる心」を育てるよう工夫している。 |
| ●言葉の由来や変化 | ・適宜，「言葉のきまり」として取り立てて教材化し，活動を通して楽しみながら，言葉の由来や変化について学べるよう工夫している。 |
| ●読書 | ・読書のおもしろさやよさを感じ，読書の世界を広げることができるよう，上下巻それぞれに，読書活動単元・読書教材を設定し，本との出会いの場を提供している。  ・「読書に親しもう」（上巻で設定）では，ブックトークやアニマシオンなどの読書活動を通して「なぜ？」「あれ？」をクラス全体で共有し，探究的に読書を行う中で互いの感想を交流し，進んで読書に向かう態度を養うよう工夫している。  ・「読書を広げよう」（下巻で設定）では，本のポップ作りなどの活動を行ったり，自身の読書生活をふり返ったりしながら，読書の楽しさや意義に気づけるよう配慮している。  ・「読書の部屋」では，発達段階に応じた本を表紙写真とともに紹介し，児童の興味に応じて，読書の幅を広げられるよう工夫している。また，3年以上の上巻では読書記録カードを示し，豊かな読書生活を広げられるようにしている。  ・「読むこと」のてびき内で，作者や教材のテーマに関連する本を紹介している。 |
| **【3】　話すこと・聞くこと** | |
| **⑴　児童の興味や発達段階，目的，意識，必然性などへの配慮はなされているか。** | |
|  | ・児童の興味や発達段階のほか，他教科での学習内容にも配慮し，取り組みやすい題材を教材化することで，必然性をともなった積極的な活動を促し，伝え合うことの喜びを味わえるよう工夫している。 |
| **⑵　教材の数や配列，系統は適切になされているか。** | |
|  | ・「話す・聞く・話し合う」活動を系統的に位置づけ，年間2～3か所の単元を中心に，小教材を適宜設定し，主体的に話したり，聞いたり，話し合ったりする力を養えるよう配慮している。  ・ 1～4年では，年1回の話す単元のほか，スピーチを行う小教材を原則4月，夏休み明け，冬休み明けに設定し，児童一人ひとりの「話す場」が確保できるよう配慮している。▶2上28「はじめたよ，こんなこと」，3上30「しょうかいしよう，わたしのお気に入り」，4上26「見つけたよ，友達の良いところ」など  ・2年以上に設定した「言葉を受け止めよう」では，設定された場面にふさわしい話し方・聞き方・話し合い方について友達と対話しながら考えることで，よりよい話し手・聞き手に求められる「共感する力」を育てるよう配慮している。▶2上62「どう言えばいいかな」，4上84「言葉のいろいろな表情」，6上40「話し合ってまとめよう」など |
| **⑶　学習の見通し，内容についての説明は適切になされているか。** | |
|  | ・単元冒頭には，活動の概要を一覧で提示し，学びの見通しをもてるよう配慮している。また，活動の重点項目には色アミをほどこし，学習の焦点化を図っている。  ・発言例の具体は，可能な限り全文とともに，発言の意味や注意点を示すようにし，児童が教科書の発言例を参考にしながら，実際の活動を行うことができるよう配慮している。 |
| **【4】　書くこと** | |
| **⑴　児童の興味や発達段階，目的，意識，必然性などへの配慮はなされているか。** | |
|  | ・児童の興味や発達段階のほか，他教科での学習内容にも配慮し，さまざまな種類の文章に触れ，その形式を学ぶとともに，目的や意図，相手に応じた文章を書く場を，説明的な文章・文学的な文章・実用的な文章のいずれかに偏ることなく，バランスよく設定するよう配慮している。 |
| **⑵　教材の数や配列，系統は適切になされているか。** | |
|  | ・「説明的な文章，文学的な文章，実用・日常的な文章」を書く場面を系統的に位置づけ，年間1～2か所の単元を中心に，小教材を適宜設定し，書くための技能を段階的に身につけ，論理的に考える力や構成を組み立てる力，効果的に伝えるための工夫して書く力を養えるよう配慮している。  ・ねらいや技能を焦点化して学習を進めるレッスン小教材「文章の書き方・まとめ方」を設定し，書くことに限らず，読むこと，思考を深めることにも活用できる「国語の基礎力」を育てられるようにしている。  ・6年では，「読むこと」，「話すこと・聞くこと」との複合単元を設定し，各領域で身についた力を有機的に関連させながら学びを進めるよう工夫している。▶6下9「「本物の森」で未来を守る」（筆者の意見に対する複数の意見を読み，自分の考えを形成し，意見文を書く），6下86「日本の魅力，再発見」（資料を集めて調べたことを提案文としてまとめ，それをもとにポスターセッションを行う）など  ・読んだことを書くことに生かすことができるよう，説明文教材に続くかたちで書くことの教材を設定し，意欲・探究心，読解で得た資質・能力，という二つの側面からのつながりで学びを支え，書く力を効果的に育てるよう工夫している。▶1下12「のりものしらべをしよう」（対応する説明文教材「くらしをまもる車」），3上46「食べ物のひみつをさぐろう」（対応する説明文教材「ミラクルミルク」），5下70「言葉について調べよう」（対応する説明文教材「「一本」から見える数え方の世界」）など  ・「季節のたより」「言葉をつないで文を作ろう」でも書く課題を設定し，年間を通して「書く場」が確保できるよう配慮している。 |
| **⑶　学習の見通し，内容についての説明は適切になされているか。** | |
|  | ・単元冒頭には，活動の概要を一覧で提示し，学びの見通しを持てるよう配慮している。また，活動の重点項目には色アミをほどこし，学習の焦点化を図っている。  ・児童作文例は，可能な限り全文とともに，構成や注意点を示すようにし，児童が教科書の作文例を参考にしながら，実際の活動を行うことができるよう配慮している。 |
| **【5】　読むこと** | |
| **⑴　教材の特性やねらいに応じた言語活動の設定への配慮はなされているか。** | |
|  | ・目的意識をもって読むことができるよう，言語活動の目的とめあてを明確に示し，読解プロセスを可視化することで，主体的な学びを生み出すよう配慮している。  ・てびきの設問に，読むための「目的」を示し，「何のために学ぶのか」を自覚できるよう工夫している。  ・読むための技能を段階的に積み上げることができるよう，教材の特性やねらいに応じた言語活動を設定し，思考力，判断力，表現力，批評力などの読みの力を養うことができるよう，配慮している。 |
| **⑵　多様な文章に触れることへの配慮はなされているか。** | |
| ●文学 | ・定評のある優れた文学教材を中心に，想像力を広げ深く味わうことで，児童の豊かな心を育むことのできる作品を選定している。  ・つけたい力を明確にして作品を選定するとともに，テーマや作品の背景などが特定のものに偏ることなく，さまざまなものに触れることができるよう，作品を選定・配列している。 |
| ●説明文 | ・他教科での学習内容にも配慮しながら，児童の興味や関心，発達段階に応じた題材を，自然科学，言語，社会科学など，幅広い分野から偏りなく取り上げている。  ・文章構造は，発達段階に合わせて，単純なものから複雑・高度なものになるよう配慮して配列している。 |
| **⑶　読みの力をつけるための対応はなされているか。** | |
|  | ・文学では「問い」づくりをキーワードに，読書単元を中心に，作品を楽しみ，味わいながら，おもしろさに気づき，価値ある本質的な問いを作り出す力を段階的に養うことができるよう，学びの積み上げに配慮して教材を配列している。▶2上74「山のとしょかん」，3上94「あらしの夜に」など  ・説明文では，4年以上の下巻冒頭教材に比べ読みの教材を設定している。複数の文章を読み比べることで，筆者の論の展開や主張を吟味し，多面的に考えることで，自分の立場を明確にし，意見を形成する力を養うことができるよう工夫している。▶4下9（ムササビについての文章の読み比べ），5下9（新聞記事の読み比べ），6下9（筆者の意見と，その他の意見の読み比べ） |
| 4 　その他 | |
| **⑴　印刷・製本など，造本上の配慮はなされているか。** | |
| ●表紙・製本・印刷 | ・表紙は，半年の使用に十分耐えることができるような加工を施し，折れにくくしている。  ・表紙絵は，児童の日常で経験できる題材や様子をモチーフにしながら，日常とは異なった世界を描くことで，児童への期待や願いを込めるとともに，想像を大きく膨らませることができる絵を採用している。繊細な絵柄，やさしい色合いの絵であり，「この教科書とともに学んでいきたい」という児童の学習意欲を高めることができる。  ・背にのりをしっかりとつけて表紙でくるみ，製本することで，堅牢でありながら開きやすい本になるよう工夫している。  ・印刷はやわらかい色調ながらも，鮮明で読みやすい。また，カラーユニバーサルデザインの観点から，色調・配色にも配慮している。  ・使用している用紙は落ち着いて学習ができるよう配慮した，ややクリームがかった色合いのもので，薄いながらも裏写りがしない。  ・環境に配慮した紙と植物油インキを用いて印刷している。 |
| ●上下二分冊 | ・児童の持ち運び時の負担を考慮し，上・下巻の二分冊にし，一冊の重さが軽くなるよう配慮している。  ・一年に二回，新しい教科書に出会う喜びを感じることができるとともに，文章量が増え，内容が複雑・高度になる高学年において，ページ数を減らすことなく，ゆとりをもった丁寧なページ構成を実現している。 |
| **⑵　特別支援教育への配慮はなされているか。** | |
|  | ・1年上巻では，単語や文節のまとまりが行をまたぐことがないよう，文字数を調整して改行することで，読む際の負担感を減らし，意味のまとまりをとらえやすくしている。  ・すべての文学・説明文教材の脚注罫には5行ごとの行数字のほか，1行ごとに点（・）で行を示し，特定の行を見つけたり，指示をしやすくしたりしている。  ・カラーユニバーサルデザインの観点から，色を用いた図版などから情報を読み取る際には，色の違いだけでなく，形や模様などからも識別できるようにしたり，必要に応じて，文字情報を加えたりして，色だけに頼った活動にならないよう配慮している。  ・囲み線をつけたり，色アミをしいたりして，大事なポイントや本文の記述とは異なるものに，すぐに気づけるようにしている。  ・すべての児童が落ち着いて学習に取り組めるよう，デザインや色遣いに配慮するとともに，色覚問題を研究する団体の校閲を受けている。  ・活動が複数ページにわたる「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では，学習に見通しをもちやすくするため，冒頭に「学習の見通しをもとう」を設定し，児童が活動の手順を意識して活動に取り組めるよう配慮している。  ・「読むこと」のてびきは，原則，見開き2ページの上下二段組で展開している。見開きにおさめることで学習プロセスが見渡せ，上下二段組で文字を素直に配置することで，読む際のストレスがない。つくり・分量ともに，負担感がないよう配慮している。 |
| **⑶　情報機器の活用への配慮はなされているか。** | |
|  | ・これからの情報化社会を考慮し，インターネットやコンピューターの活用，プロジェクターによる資料提示など，児童が情報機器に触れられるような活動を設定するよう配慮している。▶4下70「ドリームツリーを作ろう」（プロジェクターの活用しての発表），5上136「イン ターネットを活用して情報をさがそう」，6上72「電子メールで質問しよう」  ・教材の内容に応じて，適宜，QRコード対応コンテンツを用意している。紙面に示されたQRコードをスマートフォンなどで読み取ることで，インターネットとつながり，動画や「読むこと」てびきに対応したワークシートなど，学習の手助けとなるコンテンツを利用できるようにし，より効果的な学習ができるよう工夫している。▶1上8（口形指導用の動画），3上44（学習のてびきに対応するワークシート），5上45（農林水産省の資料へのリンク）など  ・従来どおりの「紙の教科書」のほか，デジタル教科書を用意している。文字の大きさを変えての表示や白黒反転表示など，誰もが学びやすい基本的な機能を搭載し，特別支援に対応できるよう配慮している。 |
| **⑷　学校図書館などの活用への配慮はなされているか。** | |
|  | ・学校図書館などを利用する際，児童が必要な本や資料を選ぶことができるよう，5年を除く全学年の上巻で，図書館活用に関する教材を設定し，本の種類や図書館での配置の仕方，探し方について指導することができるよう配慮している。また，学校図書館だけでなく地域の図書館についても触れるなど，発達段階に応じて，さまざまな図書館を利用し，必要な本を選ぶことができるよう工夫している。▶1上78「ほんをよもう」，2上124「図書かんに行って読もう」，3上138「学校図書館で本をさがそう」，4上136「地いきの図書館を利用しよう」，6上132「目的に応じて調べよう」  ・1年下巻から6年下巻までにわたって各巻に設定された「読書の部屋」では，児童が広く読書に親しむことができるよう，発達段階に応じたさまざまな図書の紹介を行っている。本の種類やジャンルなど，特定のものに偏ることがないように注意し，豊かな人間性を育む良書を紹介するよう配慮している。▶1下58，3上108・140など |
| **⑸　社会に開かれた教育課程への配慮はなされているか。** | |
|  | ・コミュニティ・スクールを意識し，児童が地域住民と関わり，社会とのつながりをもちながら学びを進めることができるよう，また，それぞれの学校の実態に応じて，保護者や地域住民と連携し，児童の資質・能力を育むことができるよう配慮して，題材の選定，教材の設定をしている。▶5上60「働く人にインタビュー」など |

本資料は教科書発行者行動規範に則っており、配布を許可されているものです。　　**学校図書株式会社**